

株式会社東洋経済新報社 様



「求めていたのは、記事コンテンツのキャッシュをリアルタイムで更新できるCDN。『東洋経済オンライン』では、表示を高速化し、一時的なアクセスの急増にも対応できるよう、GigaCC CDNサイトアクセラレーションサービスを導入しています」 株式会社東洋経済新報社 データ事業局 データシステム部 部長 村山 雄一氏

『週刊東洋経済』や『会社四季報』を発行している株式会社東洋経済新報社。同社が運営する『東洋経済オンライン』では、サイトの負荷分散や突発的なアクセスの急増へ対応するためにCDNを利用しているが、以前利用していたサービスはキャッシュされているコンテンツの更新や削除がリアルタイムに反映されず、サイト運営の課題となっていた。新たに「GigaCC CDN サイトアクセラレーションサービス（以下、GigaCC サイトアクセラレーション）」を導入した経緯と効果について詳しく話を聞いた。

CDNで「サイト表示の高速化」と「突発的なアクセスの急増への対応」を実現

— GigaCC サイトアクセラレーションの利用状況について教えてください。

当社で運営している『東洋経済オンライン』のCDNとして、GigaCC サイトアクセラレーションを利用しています。その目的は大きく2つ。「サイト表示の高速化」と「突発的なアクセスの急増への対応」です。

— CDNを利用するようになった理由を教えてください。

『東洋経済オンライン』は2003年6月より本格的なコンテンツの配信を開始し、記事や情報の充実を図りながら順調にアクセスを増やしてきました。アクセス数が増えることは喜ばしいことですが、ストレスなくコンテンツを閲覧していただくためにはシステムインフラへの投資も必要となります。その一環として、CDNを利用しています。

CDNを利用する以前は、利用者の多いポータルサイトなどに当社コンテンツへのリンクが掲載されると、一時的にアクセスが集中してWEBサーバにトラブルが発生してしまうこともありました。その結果、コンテンツの配信に不具合が生じ、利用者の皆さまにご迷惑をかけてしまうだけでなく、メディアとしての信頼性損失や価値低下にもつながりかねません。さらに『東洋経済オンライン』では会員向けの有料コンテンツも配信していますので、コンテンツの配信ができなくなる状況はできる限り避けなければなりませんでした。

CDNを利用すれば、大掛かりなシステムの改変をしなくても、「サイト表示の高速化」と「突発的なアクセスの急増への対応」を実現できるので、2009年から利用を開始しました。当初は別のCDNサービスを導入していたのですが、2011年9月よりGigaCCサイトアクセラレーションを利用しています。



株式会社東洋経済新報社

| | |
|---------|-----------------------|
| 住所 | 東京都中央区日本橋本石町1-2-1 |
| 代表取締役社長 | 柴生田 晴四（しばうた せいし） |
| 創立 | 1895年11月15日 |
| 資本金 | 2億円 |
| 従業員数 | 272名（2011年9月末現在） |
| 事業内容 | 雑誌・書籍等の発行・販売、データベース事業 |

1895（明治28）年、『東洋経済新報』（後に『週刊東洋経済』と改題）の創刊から百十余年。雑誌・書籍の刊行をはじめ、企業・経済データ事業、そしてコンテンツの各種デジタルメディアによる提供を行っている。企業情報サービスは、『会社四季報』を核に全上場企業の財務データや独自業績予想といったデータベース事業や、Webサイトによる情報提供など新しいチャンネルを展開。『東洋経済オンライン』は、同社が所有する膨大なコンテンツをインターネットを通じて提供するWEBサイトとして、「ビジネス」「マネー」「ライフ」の3カテゴリから旬な投資・ビジネス・知的生活情報を発信している。



『東洋経済オンライン』のトップページ

キャッシュ更新のタイムラグにより、「最新」のコンテンツをリアルタイムで提供できなかった

— CDNを切り替えた理由を教えてください。



「タイムラグにより、次の作業に移れなかったり、ストレスを感じたりすることがありました」(村山氏)

以前利用していたCDNでも、「サイト表示の高速化」と「突発的なアクセスの急増への対応」という点に関しては一定の成果を得ていました。しかし、本サイトのコンテンツを更新してからCDNのキャッシュ情報が更新されるまでにタイムラグがありました。

2009年当時、当社が検討したCDNに関して、タイムラグはどれも同じような状況でしたので半ばあきらめていました。そのため、CDNの切り換えを積極的に検討していたわけではなかったのですが、GigaCCサイトアクセラレーションならリアルタイムにキャッシュを更新できるということを知り、契約更新を機会にCDNの切り換えを検討することにしました。

— タイムラグはどのくらいだったのでしょうか。

平均するとコンテンツを更新してから20分ほどです。通常の企業サイトなどでは問題にならない時間かもしれませんが、当社の場合は20分といえども、ニュースの配信に遅れが生じたり、記事の内容を追加・修正したにもかかわらず古い情報が配信されたままになっているという状況は、できれば改善したいポイントでした。

また、発行している雑誌の発売情報なども定期的に更新しているのですが、テキストは更新されているにもかかわらず、画像データが更新されず古い表紙が表示されてしまうということもありました。いずれにせよ「最新」のニュースやコンテンツをリアルタイムで提供できないということは、当社にとっては好ましい状況ではありません。

またサイトを管理する上で、コンテンツの掲載・削除・更新を確認する作業をしなければなりません。タイムラグが生じることで更新を最終確認するまで次の作業に移れなかったり、ストレスを感じたりすることも少なくありませんでした。

無料トライアルを利用して性能と動作を確認

— GigaCCサイトアクセラレーション以外にも、導入を検討したCDNはありましたか。

GigaCCサイトアクセラレーションが駄目なら、それまで利用していたCDNを使い続けるつもりでした。

— GigaCCサイトアクセラレーションの導入経緯について教えてください。

メールニュースの記事でGigaCCサイトアクセラレーションのことを知りました。ホワイトペーパーを読むと、リアルタイムでキャッシュを更新できるという点以外にも、後発製品のためか機能も充実していると感じましたので、当社から日本ワムネットに連絡をしてすぐ説明に来てもらいました。

仕様や利用コストに関して問題はなく、また欧米での導入実績(※米国Cotendo社により提供されるサービス)も豊富なため、無料トライアルを利用して実際に試してみることにしました。

— トライアルの結果はどうでしたか。

CDN本来の目的である「サイト表示の高速化」と「突発的なアクセスの急増への対応」という点に関して問題はなく、キャッシュのリアルタイム更新も簡単な操作ですぐに確認できました。また、サポートも迅速かつ丁寧な対応をしてもらえたので、安心してGigaCCサイトアクセラレーションを利用できると感じました。

— 切り換え作業はどのように行なったのでしょうか。

元々サイトのディレクターが少し特殊な構成になっていたため、GigaCCサイトアクセラレーションの導入効果を最大化するために若干の修正作業を行いました。切り換え作業はDNSを切り替えるだけなので、大きな手間はかかりませんでした。

スピード・安定性はもちろん、ネットワーク回線のコスト削減効果も

— GigaCCサイトアクセラレーションの導入効果について教えてください。

平日の午前中に切り換え作業を行ったのですが、たまたま切り換え直後に当社サイトのニュースがポータルサイトに取り上げられ、アクセスが急増しました。ピーク時でもサーバに影響が出るようなことはなく、切り替えてすぐにGigaCCサイトアクセラレーションの実力を確認することができました。



「導入後、プロバイダと接続しているネットワーク回線のトラフィックが削減されました」(村山氏)

— キャッシュ更新のタイムラグについてはいかがですか。

わずか数分でキャッシュは更新されるようになり、すぐに更新状況を確認できるようになりました。

また強制的にキャッシュを更新した際、完了メールが届くのが便利です。当社では、複数のメンバーにメールが届くようにしており、自動的に重要なコンテンツの更新状況が連絡されるようになっています。

— その他に便利だと感じる機能や導入効果などはありましたか。

レポート機能が充実しているため、毎日レポートを見ながらCDNの利用状況を確認しています。特に突発的にアクセスが急増した場合、その原因やリンク元のサイトを簡単に分析できるようになりました。

また以前は、たとえばキャッシュする際に情報をどれくらいの期間、保持するかを指定するコンテンツのキャッシュ時間(TTL)などを変更する際、サービスの提供会社に都度、設定の変更を依頼しなければならなかった。GigaCCサイトアクセラレーションでは、このような設定変更をコンソール用の画面から社内で作業できるようになったので、いろいろな設定を試しながら最適化を探ることができるようになりました。

さらに、GigaCCサイトアクセラレーション導入後、プロバイダと接続しているネットワーク回線のトラフィックが明らかに減りました。詳細な分析はこれから行う予定ですが、このような状況が続けば年間かなりのコスト削減効果が見込めます。

日本ワムネットへの要望と期待

— 今後の拡張予定などはありますか。

スマートフォンなどモバイル向けコンテンツや動的コンテンツのアクセラレーション、DNSの外出しなどを検討していきたいと考えています。

— 日本ワムネットへの期待などあればお聞かせください。

現状、GigaCCサイトアクセラレーションのサービスにはとても満足していますが、改善要望点などもあります。日本ワムネットが国内ユーザーの声を米国Cotendo社へ積極的に伝えることで、機能や使い勝手の向上を実現していただきたいと思います。

お忙しい中、貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

* 東洋経済新報社 (東洋経済オンライン)
<http://www.toyokeizai.net/>

* 記載の担当部署は、2011年12月の組織名です。

日本ワムネット株式会社

営業部

〒104-0033 東京都中央区新川1-5-17 パシフィックマークス新川9F

TEL : 03-5117-2150 FAX : 03-5117-2155

Email : cdn.sales@wamnet.jp

Web : <http://www.gigaccsecure.jp/acceleration/>